

15	豊川	小坂井中学校	イタクラ ヤスシ		
			名前	板倉	靖
分科会番号	03b	分科会名	社会科教育（中学校）		

研究題目

「社会的な見方や考え方を働かせ仲間とともに

よりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」

～中学3年公民分野「地方自治と私たちーもっと元気な豊川をめざしてー」の実践を通して～

1 はじめに

(1) 研究題目の捉え

豊川市社会科部では、研究題目「社会的な見方や考え方を働かせ仲間とともによりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」を設定し、研究題目を次のように捉えた。

【社会的な見方や考え方を働かせ】

社会的な事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けることである。

【仲間とともに】

仲間とは、学級の子どもたちだけでなく、学びを通してかかわるすべての人を含める。

【よりよい社会づくりへの参画をめざす】

よりよい社会とは、そこにかかわる人にとって、幸せを感じられる社会（持続可能な社会）である。参画するとは、行動化だけをめざすのではなく、参画への意識や意欲を高めたり、行動化へのきっかけを得たりする姿である。

(2) 単元設定の理由

公民分野の学習に入ってから、政治、社会情勢のニュースを見る機会を増やして、授業で発言に絡めてくる生徒が少しずつ増えてきた。とは言え、現在の豊川市長の名を答えられる生徒は約3割にとどまり、豊川市制80周年記念事業で何が行われたかを尋ねた際には、ほとんど挙げるができなかった。このことから、生徒にとっては地方自治でさえも自分ごとと捉えられていないと考えた。しかし、地方自治の学習は、自分自身の生活と照らし合わせることができ、身近な問題に感じやすいと考える。そこで、本単元ではより身近に感じられるであろうイオンモール豊川の開業を通して地方自治とのかかわりを学び、それを契機として豊川市の抱える課題（「拠点がないこと」「海・山・川の守り方」「外国人の人口増加」「車の利用者が多いこと」「駅の多さ」）を自分ごととして捉え、豊川市の展望について主体的に追究することで、地域社会の一員として参画する意識をもたせたいと考えた。

2 研究の基本的な考え

(1) めざす生徒の姿

- I 仲間とかかわりながら、自分の考えを再構築する姿
- II よりよい社会を実現するために、地域社会に参画をしようとする姿

(2) 仮説と手立て

仮説 I 同じ課題を選んだ生徒同士で話し合わせたり、それをもとに価値判断を深める場を設定したりすることで、生徒が自分の考えを再構築するだろう。

仮説Ⅱ ゲストティーチャーを活用したり、主権者として未来を見据えられるような課題を設定したりすることで、地方自治を自分ごととして捉え、よりよい社会の実現に向けて主体的に取り組むことができるだろう。

仮説Ⅰの手立て

- 手立てⅠ-① 豊川市の5つの課題について、より重要だと思う課題を個人で選択させたのち、同じ課題を選んだ生徒同士で話し合う場を設定する。
- 手立てⅠ-② より重要だと思う課題の価値判断をする際、3つの視点（「効率」「公正」「持続可能」）を根拠として考えるよう指示する。

仮説Ⅱの手立て

- 手立てⅡ-① ゲストティーチャー（市役所職員）より豊川市の課題の提示と、まちづくりの実際を説明してもらう。
- 手立てⅡ-② 単元を貫く課題「豊川市が100周年を迎えるとき、どのような街になってほしいか」を設定し、課題に対する考えを市役所へ提出するという目的をもたせる。

3 授業の実践
(1) 単元構想

○単元の構想（8時間完了）

学習の流れ	主な手だて
<p>地方自治にはどのような役割があるのだろう。①②</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域のことは、そこで暮らす住民の意思で運営する必要がある。 二元代表制、直接請求権など、国の政治とは違い、住民の意志が強く反映されている。 地方債の発行が増えすぎると、財政の維持が難しくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な市の仕事について触れることで、地方自治の役割を実感できるようにする。 国政との違いを確認することで、地方自治がより住民の意志を強く反映させる仕組みであることに気づけるようにする。
<p>豊川市が100周年を迎えるとき、どのような街になってほしいだろう。</p>	
<p>豊川市のまちづくりを知ろう。③④</p> <ul style="list-style-type: none"> ぎょうぎョランドのリニューアル。テニスコートの新設。芸能人、アスリートを呼び込んだイベント。イオンモール豊川の開業。 「もっと元気な豊川を目指して」 市がイオンモール豊川を誘致したわけではないが、まちづくりのルールや大規模小売店舗立地法のもと、多く関わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元を貫く課題を設定することで、見通しをもって学習に臨めるようにする。 市役所の方をゲストティーチャーとして呼ぶことで、地方自治を自分ごととして捉えられるようにする。 「まちづくり」について全体で定義づけを行うことで、見通しをもって考えられるようにする。
<p>豊川市ならではの特徴から課題を考えよう。⑤⑥⑦（本時）</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 拠点が点在→いろんな公共交通機関の利便性を維持する必要がある。（持続可能） 市内に海・山あり→海であれば津波、山であれば土砂崩れなど、災害は命にかかわる（公正、持続可能）。 外国人の人口増加→人口増加は市の存続のために何より大事（持続可能）。 車の利用率が高い→渋滞、事故率が高くなるだけでなく、公共交通機関の維持が難しい（効率、公正、持続可能）。 駅が多い→駅周辺の発展がないと公共交通機関の維持が難しくなる（持続可能）。 	<ul style="list-style-type: none"> 市役所の方から直接豊川市の課題をうかがうことで、意欲的に課題を追究しようとする。 他市との比較をすることで、価値判断の根拠になるようにする。 課題追究の際、個人で考え、小グループで共有したのち、全体で交流し、最後に個人に戻す場を設定することで、自分の考えを再構築できるようにする。 「効率」「公正」「持続可能性」を判断基準とすることで、全体の利益を考えられるようにする。 イオンモール開業による新たな課題が出たら、トレードオフを考慮にいれた考えができるようにする。
<p>豊川市のまちづくりのために、自分はどのようにかかわっていけばよいだろう。⑧</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 人任せに考えるのではなく、自分の意思を発信して、自分たちで住みやすい街をつくりたい。 これから自分たちが街の未来を背負っていくと考えると、もっと豊川市のことを自分から知るべきだと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分にできることと問うことで、社会参画の在り方について考えられるようにする。 市役所へ提出すると伝えることで、責任感をもって学習に臨めるようにする。

【手立てⅡ-①】

ゲストティーチャーを活用することで、地方自治を自分ごととして捉えさせる。

【手立てⅠ-①】

同じ課題を選んだ生徒同士で話し合わせることで、自分の考えを広げ、自信をもって考えを伝えられるようにし、考えを広げたり深めたりできるようにする。

【手立てⅠ-①・②】

価値判断の際に視点を与えることで、全体の利益について考え、違う課題を選んだ生徒同士が同じ視点をもって意見を交わせるようにする。

【手立てⅡ-②】

市役所に提出させることで、主体的な学習に導く。

(2) 抽出生徒Aについて

生徒Aは、社会科の授業に意欲的に取り組み、知識も豊富にある。また、学習課題について予想を立てて学習に臨むこともできる。しかし、用語や知識の理解にとどまり、自分ごととして捉えることが苦手な一面もある。豊川市長の名は知っていたが、質問をした時期に市長選が行われることについては知らなかった。前単元の日本国憲法では、法律が人を守るものだという認識はできたものの、より自分たちを守る法律を作ってほしいと振り返るにとどまっており、自分からかけ離れたものと捉えている様子が見えがえた。本単元では、豊川市ならではの課題を解決する学習を通して、学んだことや調べたことを自分の生活と関連付けて考える姿を期待したい。さらに、仲間の考えを取り入れながら自分の考えを見つめ直し、豊川市のまちづくりについて自分ごととして捉え、社会参画していこうとする姿を期待したい。

(3) 授業の実際

①単元を貫く課題と出会う生徒A

第1時では、国、都道府県、市区町村ごとの仕事内容に触れ、「なぜ地方公共団体があるのか」と問うことで地方自治の役割を学び、その必要性を確認した。

第2時では、「二元代表制」、「直接請求権」、「地方財政」など、地方自治の仕組みについて説明した。こうして、地方自治の役割と仕組みを学んだところで、豊川市は住みやすい街かと問うた。生徒たちは「程よい田舎」「イオンモールができた」などと口にした。そして、豊川市が市制80周年を迎えたことを確認したところで、「豊川市が100周年を迎えるとき、どのような街になってほしいか」という単元を貫く課題を提示した。現時点での考えとして生徒Aは「安心して過ごせて、もり上がっているまち」と記述した(資料1)。この段階では、抽象的な表現にとどまっており、自分ごととして捉えているとは言いがたい。

資料1 生徒Aの記述

現時点での課題に対する考え

安心して過ごせて、もり上がっているまち。

②豊川市の課題を自分ごととして捉えようとする生徒A (手立てⅡ-①)

第2時で豊川市に焦点を当てたことから、第3時では、豊川市の現状と課題について学級全体で考えた。現状を知らせる資料として、「豊川市制施行80周年記念事業のご案内(実施計画書)」を提示した。市全体で活性化をしようとしていることを読み取らせ、豊川市の課題は何かと問うたが、課題をあげられる生徒はいなかった。続いて前時で学習した地方財政に関連する資料として、「令和5年度豊川市一般会計予算」を提示した。豊川市の自主財源が5割を超えていることを読み取らせたが、豊川市の課題は生徒からあがらなかった。そこで、ゲストティーチャー(市役所職員)に課題を聞いてみようと言ったところで第3時を終えた。

資料2 市役所職員の出前授業の様子

第4時では、実際にゲストティーチャー(都市整備課に所属している市役所職員)を招いて出前授業を実施した。ねらいは2つある。1つは、前時に出なかった豊川市の課題を具体的に提示してもらうことである。もう1つは、開業したばかりのイオンモール豊川と豊川市と



の関わりである。生徒にとって身近なイオンモール豊川の存在が、豊川市のまちづくりに関係していることを実感することで、学習課題を自分ごととして捉え、まちづくりをより意識できると考えたからである。

当日の授業では、市役所職員の方より、豊川市の具体的な課題として、「拠点が点在していること（それぞれの拠点周辺を発展させるのが難しい）」、「海・山・川の守り方（減災や防災）」、「外国人の人口増加（多文化共生の難しさ）」、「車の利用者が多いこと（公共交通機関の衰退）」、「駅の多さ（管理・維持の難しさ）」の5つがあがった（資料3）。また、イオンモール豊

川の開業までの経緯も説明された。内容は、長い時間をかけて地元住民や商工会議所だけでなく、他市や県、国と協議を重ねてきたことなどである。生徒Aの振り返りの「ルールを変えたり、いろいろな人と話し合ったり、たくさんのことをしないといけない」という記述から、社会的事象の法に関わる見方や考え方が広がったと考える。また、市役所職員からのまちづくりにおける豊川市の課題を真剣に聞く中で、「市の課題に向き合って、豊川市のことを真剣に考えていきたい」と、学習課題を自分ごととして捉えようとする姿が見られた（資料4）。

③「車の利用者が多い」ことが課題だと考える生徒A（手立てI-①、I-②）

第5時では、まちづくりについて定義付けを行い（住民の不満を減らし、住民が過ごしやすいまちにしていこう）、5つの課題がどのような問題になりうるかを全体で共有した。その後「豊川市のまちづくりのためにより重要視すべき課題はなんだろう」と問い、「効率」、「公正」、「持続可能」の3つの視点から判断するよう指示した。このように視点を設けたのは2つのねらいがある。1つは、自分だけのことでなく、全体の利益を考えられるようにするためである。もう1つは、全体交流の際、同じ視点をもって意見が述べられるようにするためである。

生徒Aは「車の利用者が多い」ことが課題であると考えた。振り返りで、市制80周年記念のテーマである「もっと、元気な豊川」を引き合いに出し、全体の利益につながることを大切にしていることがうかがえた（資料5）。

第6時では、同じ課題を選んだ生徒同士で意見交換をする場を設けた。生徒Aと同じ課題を選んだグループでは、ある生徒が車を利用するメリットに着目し、課題について見つめ直す姿が見られた。生徒Aの振り返りでは、「公共交通機関が災害で動かないとき、車で移動できるということしかなく…」と記述した。車の利用による問題点ばかり考えていた生徒Aの考えは、仲間の意見を取り入れたことで、自分の考えを再構築していることがうかがえる（資料6）。

資料3 生徒Aのメモ

Qまちづくりの課題
A.1 市4町の拠点がたくさんある
海や山などの自然の守り方
車と道路問題 駅の方さ 外国人の足ごしやす

資料4 生徒Aの振り返り

市役所の方の話と聞いて、建物を作るためには、ルールを変えたり、いろいろな人と話し合ったり、たくさんすることをしないといけないと知りびっくりしました。そして、思っていたより、イオン

川と、管理などの難しさがありました。今日のために、市の課題に向き合って、豊川市のことを真剣に考えていきたいです。

資料5 生徒Aの振り返り

車の利用者が多いという課題にしました。「もっと、元気な豊川」にちなみには、市民が元気でないためにもっと車が多いと、排気ガスや事故、渋滞によって、心の健康と関係があるという考えは、しっかり調べていきたいです。

資料6 生徒Aの振り返り

今日、車を利用するメリットを考えたとき、公共交通機関が災害で動かないとき、車で移動できるということしかなく、私たちが車とつなぐ理由は、自分が行動したいことにつながるというこのことで車とつなぐという考えは、ありませんでした。住みかちについて次回考えていきたいです。

④やはり車の利用者が多いことが課題だと考える生徒A（手立てⅠ－①、Ⅰ－②）

第7時では、「豊川市のまちづくりのためにより重要視すべき課題はなんだろう」について、全体交流の場を設けた。話し合い（資料7）で、C1は「海・山・川の守り方」の立場から効率や持続可能な視点をもって意見を述べている。C3は「車の利用者が多い」の立場から、車の利用が多いことを生かして効率の良い災害対策を提案している。また、C4は「外国人の人口増加」の立場から、公正の視点をもって意見を述べている。このように、生徒たちは、3つの視点を与えたことでそれぞれの課題について個人や一部ではなく、全体の利益について考えることができていた。

資料7 第7時の授業記録	
C1	(海・山・川の立場)災害によって車、公共交通機関、外国人の混乱、拠点ごとの連携ができないことから、災害対策をしたほうが <u>効率的で、持続可能なまちづくり</u> につながると思う。
C2	(駅が多い立場)災害対策にばかり目をやっていると、町は発展しないと思う。駅の方が海や山よりも身近なので、交通手段として駅を維持することが大事だと思う。
C3	(車利用の立場)車のドライブレコーダーを市役所に提出すれば、 <u>効率よく災害対策に生かせる</u> のではないかと。(中略)
C4	(外国人の立場)同級生に外国人が多いから選んだ。外国人にしっかり日本語を学んでもらうことで、不登校や不登学をなくして、経済の助けになってもらうのがいいと思う。
T5	公正にもかかわっているね。

授業の最後には、改めてより重要視すべき課題は何だと思うか個人で考える時間を設けた。生徒Aは、「車の利用者が多い」という意見を変えなかった。しかし、「いろいろな課題の人の話をきいて全て納得した」「全ての課題の関係を考えながら」と記述していることから、仲間の意見に耳を傾けた上で考えていることがわかる。

資料8 生徒Aの振り返り
私は、いろいろな課題の人の話をきいて全て納得したけれど、やはり車の利用が多いという課題が重要だと思います。車のCO ₂ 排出量が多いのは国全体で考えればいいことで、SDGsにも関わっています。他の課題は、豊川市だけのことであり、今、国でどうしようか考えていることに取り組んだ方がいいのかなと思います。あと、豊川に近づけるように、全ての課題の関係を考えながら、市民と協力して解決

⑤将来を想像しながら、単元を貫く課題に取り組む生徒A（手立てⅡ－②）

第8時では、単元を貫く課題（豊川市が100周年を迎えるとき、どのような街になってほしいか）について、改めて考える時間を設けた。その際、豊川市民の願いとして、記述したワークシートを市役所へ提出すると伝えた。生徒たちは驚きながらも、「これは真剣に書かないと」「要望とかも書いていいんですか」と発言するなど、気概をもって記述し始めた。生徒の中には、「多文化共生ができるようにしたい」「佐奈川の桜並木で屋台を出せば、たくさんの方が来て豊川市の魅力につながる」など、主権者として未来を見据え、豊川市の展望について主体的に追究しようとする姿が見られた。生徒Aは、単元を通して豊川市の課題を知り、その解決が非常に難しいことも理解したようである。それでも、自分に子供がいる将来を想像して考えを巡らせられるようになった（資料9）。

資料9 生徒Aの考え
1. 単元を終えて、課題に対する考え 私は、100周年を迎えるときには、安心して過ごせ、活気のある街になってほしいと単元が始まる前に思っていました。そして、いろいろな人の考えや課題について考えていくと、「あと、ずっと、豊川」に近づけるといいなと思いました。豊川市の特徴でもあり、課題でもあることは、SDGsに関わっていて、少しずつ全部をなおしていけたら「あと、ずっと、豊川」に近づけるといいなと思いました。でも、どの課題も解決が難しく、市民の声を大切にしていかなければいけないので、完全になくすることはできないのかなと思いました。そういうことに気付いて改めて、100周年になるときの豊川を想像してみると、私は、豊川市に住んでいる市民（高齢者、若者、子ども）全員が安全に過ごせるといいなと思いました。豊川が100周年になると私は35歳で、子どもがいまがけられ、そのときに、災害が来ても対応ができるようになっていたり、事故が起きにくくして、安心して生活できるような街になってほしいと思いました。

授業の最後に、単元の振り返りを行った。ほとんどの生徒が、「地域の活動に積極的に参加したい」「要望を伝えるようにしたい」と、豊川市のまちづくりのために、自分なりにできることを述べることができた。生徒Aは、「他人事ではなく」「私たちの生活に密接しているのは地方」という記述から、単元を通して自分事として学習することができたと考える。また、豊川市について「豊川市民である自覚をもち」「どうなるといいかな」「ここはどうなんだろう」と考えていこうとする記述から、地域社会の一員として参画していこうとする意識をもつことができた読み取れる。

資料10 生徒Aの考え

まちづくりのためには、市民が納得したり、意見を持つことが必要だと思ったので、今の豊川市について他人事ではなく、しっかり知っていき、「どうなるといいかな」「ここはどうなんだろう」といろいろと考えていきたいと思いました。政治などの面で一番私たちの生活に密接しているのは、地方なので、自分やこれからの未来のためにも豊川市民であるという自覚をもち、直接まちづくりはできないけれど、まちづくりを進めていってくれる人に協力できるようにしたいです。

4 研究の成果と課題 (○成果 ●課題)

(1) 仮説Ⅰについて

- 本単元では、豊川市の課題について自分の考えを構築する際、まずは個人で考え、小グループで共有したのち、全体で交流し、最後に個人に戻すという順序で行った。生徒Aは、個人では全体の利益を踏まえて車利用の問題点に着目していたが、仲間とのかかわりで車利用のメリットに着目することができた。その後、全体で交流したことで豊川市の課題解決の困難さと向き合うことになったが、それを踏まえて豊川市の展望について考えを巡らせることができたといえる。
- 3つの視点を与えたことで、全体交流ではそれらを根拠として意見を述べる生徒が多数であった。

(2) 仮説Ⅱについて

- 自分たちでは豊川市の課題について見つけられなかった分、ゲストティーチャーから課題を提示していただいた際には驚きが大きく、多くの生徒が主体的に課題を追究しようとする姿につながった。
- 単元を貫く課題については、主権者として未来を見据え、豊川市の展望を述べる生徒が多く見られた。単元後の振り返りで、豊川市とかかわっていきたいと答える生徒が多数であり、生徒Aも、「豊川市民である自覚をもち」と述べることができていた。
- ゲストティーチャーの活用について、より多面的・多角的にとらえるためには、市役所職員に加えてイオンモール豊川の開業に反対の立場の方を招いて話を伺ってもよかったと考える（イオンモール豊川の開業に反対していた地域住民や商工会議所など）。そうすることで、全体交流の際、「〇〇の立場だったら…」など、より多角的な発言が出ていたのではないかと考える。

(3) 今後の課題

本単元では、5つの課題に対してそれぞれ3つの視点から考える必要があり、生徒にとっては負担であったかもしれない。考えを構築するためには多面的・多角的にとらえることが重要だが、どの立場で、どのような視点をもてばよいのか、授業者による精選が必要であると考え。しかし、本実践では視点の与え方に課題が残った（「効率」「公正」の先に「持続可能」があるはずだが、並列的にとらえさせてしまった）。これからの実践に活かしていきたいと考える。